

# 梅之木通信

## 【縄文住居をつくる会】

第37号 2022.12.12 発行

### 今年も一年 お疲れ様でした

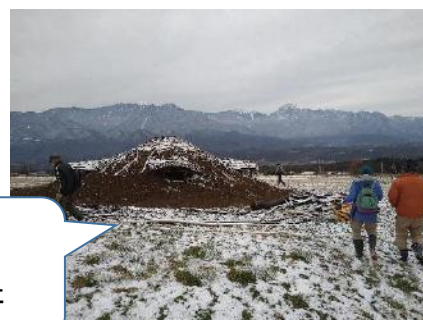
2022年もあとわずかとなりましたが、足を怪我して整形外科で縫ってもらった人がいたものの、その他は大きなけがをする人もなく無事に一年間を過ごすことができホッとしています。新たな参加者も増えて平均年齢がグ〜っと下り、孫のような子供たちを相手に作業も楽しい時間になりました。時には大学生たちの参加もあり、今までの単なる“高齢者集団”から、“縄文文化を再現する市民ボランティア集団”へと名実ともに一步前進できたのではないかと感じています。また、佐野さんの協力を得て埋蔵文化財センターや縄文展の見学、縄文土器の作成などを通して、縄文文化への理解が深められ、より縄文人に近づけた一年となったのではないのでしょうか。

#### ❖ 3/11 2022年作業始め



玄関扉のあじろ編みに  
頭を悩ませました

4/1 時ならぬ雪景色が、  
雰囲気のある風景になりました



#### ❖ 4/16 埋蔵文化財センターツアー



縄文住居初めての人も  
4号棟の内部を体験

佐野さんの案内で、普段見られ  
ない文化財を直近に見学



#### ❖ 5/14 4号棟の完成を餅つきで祝う



1棟目の経験を生かして美しい  
シルエットの住居になりました

いろいろな人が参加して  
大イベントになりました





## ☆ 7/29 5号棟の棟上げ式

3棟目ともなると柱建てから梁の設置、垂木掛けまでの早いこと早いこと、1か月弱で棟上げ式



## ☆ 9/10 縄文土器製作体験、10/1 縄文土器の野焼き



いつもの口数もなく黙々と  
思いの物ができましたか？

炎が栗の葉を焦がして  
火の勢いに驚きました



## ☆ 11/5 縄文展



会員以外のギャラリーも  
多く集まり、大盛況  
『お金を取れば良かった・・・』  
は、だれかのひとり言



## ☆ 12/3 忘年会



最後はみんなで土を被せて、  
今年の作業を終了

一年お疲れ様でした



振り返ってみると、4号棟の完成も今年の出来事で、5号棟が如何に早く形になったかが分かります。柱の本数が少ないこともあります。手足が動く若い作業員が増えたのも大きな要因かもしれません。玄関屋根部分、および玄関扉の作業が残っていますが、屋根の上部までを土で覆われた、また新たな形をした縄文住居ができあがってきました。

- ❖ 来年は3月第一週の金曜日（3月3日）から作業を再開する予定です。5号棟の残り作業も少ないので、『4月以降何をしようか？』佐野さんの意見もいただいて検討していきたいと思います。コロナ感染だけではなくインフルエンザにも気を付けて、良い年をお迎えください。